

連載

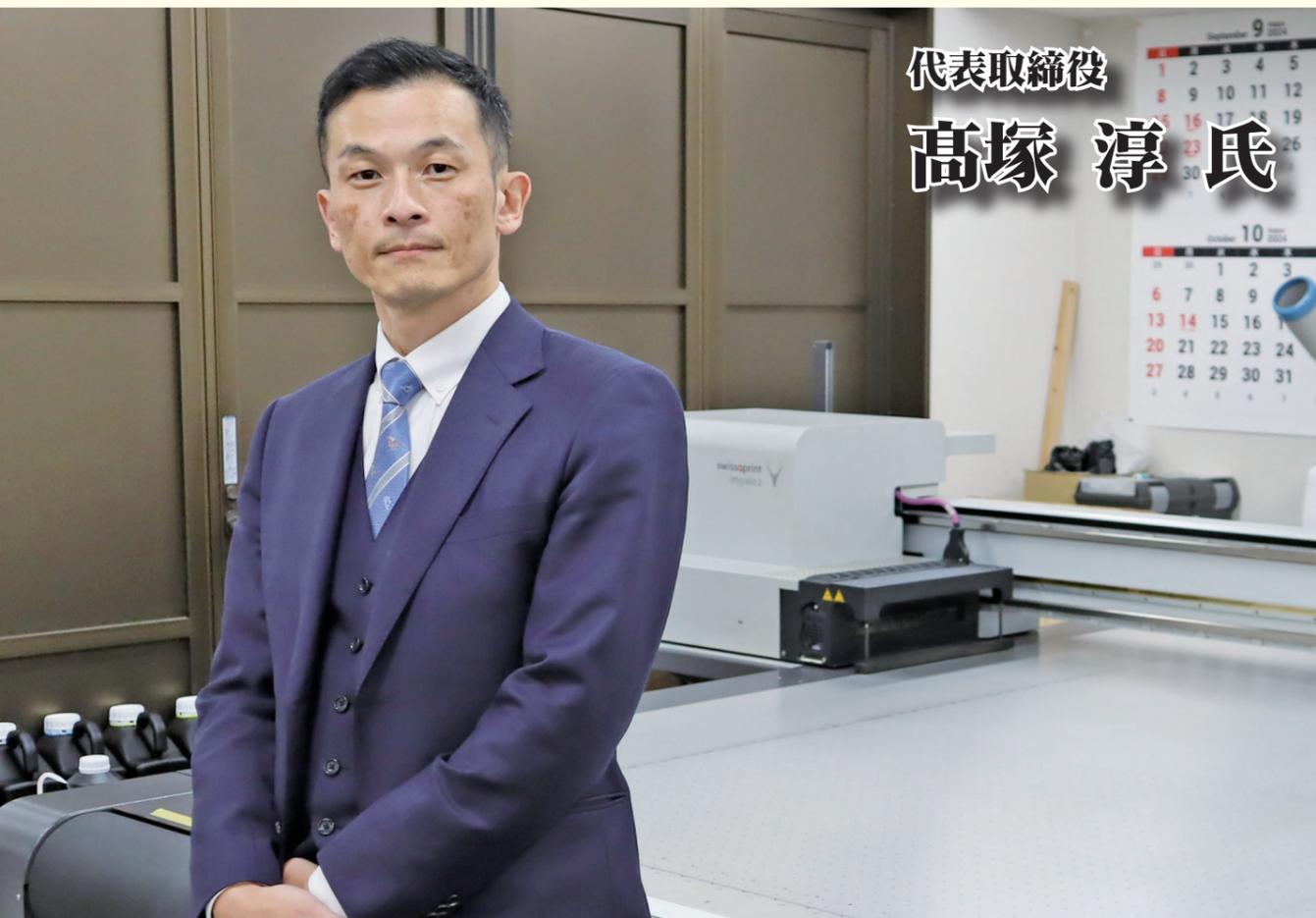
挑む

～プリント業界の挑戦者たち～

挑戦企業 No.2 (株)日庄サインテック

アフターコロナ下で仕事に戻ってくる一方、大判プリント業界を取り巻く環境は必ずしも好調とは言い切れない。資材価格の高騰、価格競争の激化、人材の確保など、続々と噴出する問題に経営者はいかなる舵取りを行うのか。

今回は1967年から製版・印刷・広告制作を手掛ける総合広告代理店・(株)日庄から、屋内外広告・装飾制作などの部門が分社化した(株)日庄サインテックの高塚淳社長に話を聞いた。



代表取締役
高塚 淳 氏



① swissQprintの大型フラットベッドUVIJP「Impala2」。アクリルや金属素材への出力が可能。高品質を実現する事業の柱となっている。
②アクリルや段ボールなど、様々な素材に対応したスイス製マルチカッティングマシン「ZUND」。切断・切削など、多彩なカット加工が可能だ。
③出力物は、掲出環境に応じてラミネートなどの加工が施される。
④調整を行うPCルーム。ここでの作業も出力オペレーターが担当する。

新聞製版から屋外広告へ進出、高品質を実現するUVIJPが活躍

◆屋外広告への参入と現在の流れ

新聞の製版事業からスタートし、各種印刷物の企画・デザイン・製作、催事・イベントの立案・企画・運営と事業を拡大してきた日庄は、2013年頃から、屋外広告の部署を設立しました。これが日庄サインテックの前身となるもので、当初はオペレーター3人という少数体制でしたが、大手飲食店の内装装飾の受託をきっかけに、受注量が増加し、徐々に事業の幅を広げていきました。

元々、新聞製版の部署だった私は、DTP作業で経験を積んだ後、2017年にオフセット印刷機を回す両国工場(現在閉鎖)の責任者に任命されました。そんな中、突然会社から並行してこちらの事業も見てほしいと言われました。どちらかを疎かにするということができなかったため、工場の色管理や作業手配に加えて、大判業務にも携わ

るように。そして日庄の機構改革に伴い、昨年10月1日をもって会社分割が実施され、私自身も社長に就任。所属社員も12名に増強され、新体制をスタートさせました。

◆ターニングポイントとなった出来事

飛躍のきっかけとなったのは、2015年6月に導入した大型フラットベッドUVIJPです。当時、最も動いていた案件が大型ポスターで、アクリルや複合板など、紙媒体以外のメディアも取り扱いたいことから、同機の導入が検討されました。

当時他部署だった私も比較検討に参加したところ、圧倒的な高品質に驚かされ、他社との差別化も兼ねて導入に賛成しました。その後、同機は事業の柱として活躍し、直受注していた飲食店の内装装飾も好調で、右肩上がりに売上を伸ばしていきました。

◆現状の課題と今後の展開について

現状の課題は、今後、事業拡大を見据える中で、現在のスペースでは手狭に感じる事です。新機種の導入等に合わせて最適化を図りたいと思います。

今後の展開としては、日庄時代から築いた色管理の知見と、インク・機種の違いによる色再現性を調整する専用ソフトウェアを活かした、他社デバイスとの「カラーマッチングビジネス」を検討しています。例えば地方の会社で、東京に得意先がある場合、わざわざ他県から出力物を運送せずとも日庄サインテックが変わりに同一のものをお届けするといった連携が可能です。

ほかにも出力データを製作する際、入力作業を自動化し、オペレーターの負担を軽減する“原寸出力データ生成ツール”を構築しました。今後、このシステムを活用した新たなビジネス展開も模索しています。



会社概要

- 創 業：2024年6月6日
- 所 在 地：東京都中央区日本橋区人形町1-5-7
- 社 員 数：12人(2025年2月現在)
- T E L：03-3249-7011
- F A X：03-3668-4689
- U R L：https://www.kk-nissho.co.jp
- 営業品目：① OOH(大判出力)の加工及び製作・施工
② 屋内外広告の加工及び製作・施工
③ 店舗装飾の加工及び製作・施工
④ 展示会ディスプレイの製作…etc
- 主な設備：大型フラットベッドUVIJP1台
溶剤IJP1台、水性IJP2台
ラミネーター1台
マルチカッティングマシン1台…etc



施工例：フィットネスジム/壁面看板とウィンドウ装飾、のぼり旗などを展開。のぼり旗などを展開。のぼり旗などを展開。森川拓野氏のブランド「タック(TAACK)」のビジュアルをあしらった。